

オバマ草の根VS. ティーパーティー

二〇一二年米大統領選挙を占う二つの運動

明治大学教授 海野素央

オバマ草の根運動に変化が生じている。その変化とは、オバマ米大統領再選の選挙活動に左右するものである。反オバマ色の強い保守派のティーパーティー（茶会）運動には、二二年の大統領選挙に向かって課題が残った。草の根運動の視点から、オバマ再選選挙を考える。

- ・オバマ草の根運動とティーパーティー運動の特徴
- ・草の根運動の求心力と手法
- ・草の根運動のロビイスト化
- ・二二年オバマ再選選挙と草の根運動の展望

二〇一〇年の米議会中間選挙において、オバマ政権与党の民主党のジェリー・コノリー連邦下院議員（バージニア州第一選挙区）の選挙運動に「草の根運動員」として研究者の立場で参加し、戸別訪問を行った。同時に、オバマ草の根運動の組織「オーガナイズング・フォー・アメリカ（OFA）」でボランティア活動をした。オバマ氏に対する有権者の意識の変化を調査し、二年前と比較することが目的だった。活動をした選挙区は、ワシントンに隣接するバー

ジニア州北部地域にある。本来は共和党の支持基盤だが、オバマ大統領が当選した〇八年に、コノリー議員が下院議席を奪った所だ。

さらに、オバマ草の根運動とは対極の位置にある保守派のティーパーティーが、ワシントンやワシントン州スポカンで開いた集会において、活動家を対象にヒアリング調査を実施した。全国規模のティーパーティーの団体フリーダムワークスが開催した二日間のセミナーにも参加し、草の根運動の手法について講義を受けた。中間選挙の翌日には、フリーダムワークスと他のティーパーティーの団体アメリカンズ・フォー・プロスペリティーの幹部にヒアリングを行った。

さらに、オバマ草の根運動とは対極の位置にある保守派のティーパーティーが、ワシントンやワシントン州スポカンで開いた集会において、活動家を対象にヒアリング調査を実施した。全国規模のティーパーティーの団体フリーダムワークスが開催した二日間のセミナーにも参加

本稿では、これらのフィールドワークの結果を踏まえ、オバマ草の根運動とティーパーティー運動を比べ、両者の相違性並びに類似性を明確にする。その際、ヒアリング調査で得たティーパーティーの活動家や有権者の声を紹介する。そのうえで、二二年のオバマ再選選挙と草の根運動の展望について述べたい。

運動が選挙活動において重要な役割を果たした。では、それぞれの草の根運動には、どのような特徴があるのだろうか。オバマ草の根運動とティーパーティー運動は、規模、組織構造、性質、求心力、手法において双方を比較することで、それぞれの特徴が明らかになってくる（次頁表）。

まず、規模である。〇八年の大統領選挙終了後、オバマ陣営の保有する草の根運動の名簿には、一三〇〇万人ものメンバーが登録されているといわれた。しかし、翌〇九年に実際に活動した運動員の数は、三一〇万人といわれる。

オバマ草の根運動とティーパーティー運動の特徴

本論に入る前に、草の根運動について触れておこう。草の根運動は、既成の政治組織主導のトップダウン型ではなく、コミュニティのメンバーから始まるボトムアップ型の政治活動である。草の根運動には、戸別訪問、有権者登録、有権者に投票に向くように促すGOTV (Get Out The Vote) と呼ばれる活動、電話による支持要請がある。これらの活動を行う草の根運動には、自発的で自律性の高い運動員が不可欠である。〇八年の米大統領選挙ではオバマ草の根運動が、一〇年の米中間選挙ではティーパーティーの

ティーパーティーは、アメリカンズ・フォー・プロスペリティー、フリーダムワークス、ティーパーティー・エクスプレス、ティーパーティー・ネイション、ティーパーティー・パトリオッツなどの全国規模の団体と中小の団体から構成されている。中小の団体は、全国規模の団体の傘下に入っているものと独立しているものの二種に分類される。これらの団体の総称が、ティーパーティーである。米紙ワシントン・ポストの調査によれば、対象となった六四七のうち、三二五の団体が全国規模の団体と連携しており、二七二の団体は独自の活動を展開している。

アメリカンズ・フォー・プロスペリティーが約一五〇万人、フリーダムワークスが約一〇〇万人、ティーパーティー・

表 オバマ草の根運動 VS. ティーパーティー運動

	規模	組織構造	性質	求心力	手法
オバマ草の根運動	310万人	・組織化 ・ピラミッド型	・文化的多様性 ・文化相対主義的 態度 ・受容的態度 ・若者層(18 ~29歳)	・オバマに対するアイ デンティティ (低下)	・積極的傾聴 ・感情移入
ティーパーティー運動	全国規模の団体 と中小の団体 (例)アメリカンズ・ フォー・プロスペリ ティ (150万人)	・分散自立型 ・放任型 ・“緩い組織” ・リーダー不在 ・フラット型	・文化的単一性 ・自文化中心主義的 態度 ・排他的態度 ・中高年(45歳 以上)	・反オバマ色(強) ・嫌悪感 ・恐怖心 ・危機感	・攻撃的 ・全面否定 ・感情的 ・偏狭的

ネイションが三万人あまり、ティーパーティー・エクスプレスが約四〇万人の会員を抱えている。ティーパーティー・パトリオッツは、約一五〇〇万人の会員がおり、最大の全国組織である。全国規模の団体の数字を合計しただけでも、ティーパーティーの会員数は、オバマ草の根運動のそれをはるかに超えている。

次に、オバマ草の根運動とティーパーティーの組織構造を比べてみよう。二年前の大統領選挙では、オバマ陣営の幹部は、草の根運動員のモチベーションを低下させることなく、彼等を組織化することに見事に成功した。草の根運動を票に結びつけるために、運動員の自発性と組織化のバランスを図ったのである。オバマ大統領の政策を支援するOFAは、全国に事務所を構えており、ピラミッド型の組織をしている。

それに対して、ティーパーティーは、全国規模から中小のものまで様々な組織が存在し、それらの団体間の連携が弱い。リーダー不在の分散型ないし放任型の「緩い組織」である。いわゆるこのフラット型組織が、ティーパーティーの個々の活動家に自律性とエネルギーを与えている。

運動の性質においても、両者は対照的であった。オバマ草の根運動員は、白人、アフリカ系、ヒスパニック系(中南米系)、アジア系など人種や民族において文化的多様性に

富んでいる。前回の大統領選挙では、バージニア州北部のフオールズ・チャーチにあったオバマ事務所には、ベトナム系、韓国系、フィリピン系、ヒスパニック系のスタッフが勤務していた。オバマ事務所は、戸別訪問においてこれらの文化的多様性の利点を活用し、文化特定のな戸別訪問を実施した。例えば、ベトナム系の草の根運動員は、ベトナム系の有権者を訪問するというように、特定の人種・民族の運動員に同人種・民族の有権者を担当させたのである。

また、事務所では、自文化は多文化の中の一つにすぎないという文化相対主義の態度が観察された。資料やポスターが、ベトナム語、中国語、韓国語、タイ語、カンボジア語、ヒンドゥー語など多言語に翻訳されていたことによく表れている。オバマ草の根運動に入り四年目を迎えるが、文化的背景の異なるスタッフや運動員が、筆者を受容する態度に助けられている。

性質に関してもう一つ顕著な特徴を挙げてみよう。それは、オバマ草の根運動員が、一八〜二九歳までの若者層が中心であることだ。〇八年の大統領選挙では、オバマ陣営は若者層の動員に成功したが、一〇年の中間選挙では、若者層の不参加で、運動員の“高齢化”が進んでいた。

一方、ティーパーティーの活動家は、白人が圧倒的に多

い。米紙ニューヨークタイムズとCBSニュースによる共同調査によれば、アフリカ系は、僅か一%にすぎない。ティーパーティーは、文化的単一性が高いので、オバマ草の根運動のように文化特定のな戸別訪問ができない。

さらに、筆者が接触したティーパーティーの活動家は、自分の価値観や信念、ものの見方が絶対であるという態度、即ち、自文化中心主義的な態度をとる傾向があった。彼等は、異なった意見や考え方に耳を傾けないで、排他的な態度をとり自論を繰り返した。例を挙げてみよう。

一〇年の三月に入り、医療保険制度改革法案の投票が近づくと、ティーパーティーは、ワシントンで大規模な集会を開いた。そこで、ニューハンプシャー州から三人の仲間とその集会に参加したシルビア・スミス(白人)に出会った。彼女たちは、政府に対する抗議の看板を持って、ジン・シャヒーン連邦上院議員(民主党・ニューハンプシャー州)の事務所へ乗り込んだ。もちろん、彼女たちは、面会の予約を取っていないかった。事務所の入り口で、シャヒーン上院議員の複数のスタッフが対応をした。

「政府が納税者の金を使って、中絶の費用に充てるのは反対だ」

シルビアたちの主張はこうだった。「それは事実ではありません」

シャヒーン事務所のスタッフは、シルビアたちが誤った情報をもとに判断していることに気づかせようとした。しかし、彼女たちは、それを意に介するようすもなく、自論を述べ続けた。

「医療保険に加入するかしんないかは、個人の選択であるべきだ。政府は国民に医療保険を強要できない」

今度は、シルビアたちは、米憲法に基づく個人の選択の自由を強調しはじめた。

「シャヒーン上院議員は、全ての国民が医療保険に加入するべきであると感じています」

スタッフの一人がそう語った。

「それでは、私たちは選択の自由を失ってしまおう」

シルビアは反論し、個人の自由の重要性を改めて訴えた。

平行線は続いた。シルビアたちは、一歩も譲ろうとしなかった。その間、シャヒーン上院議員のスタッフの意見をすべて否定しながら、感情的且つ攻撃的な態度で迫った。結局、彼女たちは、自分たちの主張を貫いて、次の議員の事務所に向かつて行った。

シルビアのように、ティーパーティーは、中高年が中心的な役割を果たしている。米紙ニューヨークタイムズとCBSニュースの共同調査によれば、ティーパーティーの平

均年齢は四五歳である。ティーパーティーの活動家の年齢の高さに関するエピソードも紹介しよう。

米国では、四月一五日は税の日で、連邦税の納入期限となっている。ティーパーティーは、この日を選んで全米各地で抗議集会を開いた。一〇年の税の日に、ワシントン州スポカーンで開催された集会で、司会者が呼びかけた。

「これから投票権を持つ人は、よく調査を行ってから、賢く投票をすることが重要です。一七歳以下の人は、立ち上がってください」

米国では、一八歳から有権者登録ができる。周りを見渡してみたら、オバマ草の根運動とは異なり若者は見当たらなかった。賢明な投票を若者に促した司会者は、気まずそうな様子をしていた。

ギャラップの調査をみると、ティーパーティーの支持者の収入は五五%が年五万ドル以上で、平均的な米国人よりも高い。四八%が職に就いており、パートタイムを含めると五五%になる。筆者が参加したいずれの集会にも退職者が目に付いた。彼等は、経済的及び時間的余裕がある人たちであった。その反面、オバマ草の根運動に参加した若者層にとつては、職探しが最優先課題で、一日八時間もボランティアとして働く余裕はなかった。前回の中間選挙では、この差が選挙運動に大きな影響を及ぼした。

草の根運動の求心力と手法

二年前と比較し、支持者のオバマ大統領に対する求心力は確実に下がった。〇八年に戸別訪問を行ったバージニア州北部のフェアファックス郡を再度訪ねた時、オバマ離れの有権者の声を聞いて衝撃を受けた。そのうちの一人、非白人の男性ステイブ・サムラル(五八)を紹介しよう。

「二年前の大統領選挙では、オバマに四〇〇ドルの個人献金をしました。しかし、もうしません。不況のなかでオバマ政権が判断した金融機関救済のための公的資金投入について、「経済状態の改善につながらなかった。(大手金融機関の)バンク・オブ・アメリカやシティ・バンクを助けただけだ」と興奮気味に不満を述べた。「次の選挙では、オバマに投票しない」と怒りをぶつけた。

それとは対照に、ティーパーティーの求心力は高かった。それは、無党派層にも広がる勢いであった。

一〇年八月二八日は、キング牧師の「私には夢がある」のスピーチがなされてから四七周年目に当たる日であった。ワシントンのリンカーン記念堂の前で保守派のトーク番組の司会者グレン・ベックが集会を開いた。その集会上、オハイオ州から友人と一緒に参加したグロリア・ペアー(六〇)は、次のように語った。

「私は無党派です。ティーパーティーのメンバーではあ

りません。オバマの『大きな政府』に反対で、この集会に参加しました。ここにいる人達は皆同じ気持ちです。オバマ大統領と共和党系の議員を追い出すことが目標なのです」

反オバマと反現職がティーパーティーの支持者の共通目標になっており、それが彼等の一体感を醸成していた。

戸別訪問中に起きたあるエピソードを紹介しよう。訪問者リストにあつたルーク・ウォーノックという二〇歳の若者を訪ねると、父親(白人)が不快な表情を浮かべて出てきた。彼は「コノリー下院議員支持」と印刷された筆者のTシャツに、即座に気付いた。

「息子は、まだ未熟だからオバマを応援しているんだ。大人になれば保守になる」

この父親と会話をしているうちに、彼がティーパーティーの支持者であることが分かった。

突然、彼が質問をしてきた。

「あなたは、移民だろう。韓国からの移民か」

思わず「日本からです」と答えてしまった。

「北朝鮮をみてみる。大きな政府には、個人の自由がないだろ。キューバもそうだ」

この父親は、非白人のオバマ大統領が北朝鮮やキューバのように政府を大きくし、個人の自由を奪おうとするので

はないかと強い危機感を持っていた。個人の自由は、政府の肥大化と介入を抑える「小さな政府」の下でこそ、機能する。彼は、このティーパーティーの基本的な考え方を強く信じていた。また、大きな政府と独裁者を重ね合わせて、恐怖心を抱いていた。それらが、彼が、ティーパーティーに参加する動機づけになっていた。危機感と恐怖心は、ティーパーティーの支持者の動機づけの核となっている部分であり、これも少なからず求心力を高めていた。

運動の手法に関しても、比較しよう。オバマ草の根運動は、戸別訪問の際、積極的傾聴や感情移入を重視する。○八年の大統領選挙において、草の根運動員に指示を出すフィールド・コーディネーターは、「ヒラリー（クリントン）やマケインの支持者の意見に耳を傾けてください。彼等を会話に巻き込んでください」と語った。シカゴのサウスサイドで、社会福祉活動家をしていたオバマ氏は、地域住民のニーズを正確に把握するには、傾聴と感情移入が不可欠であることを学んだ。彼はその手法を選挙に応用したのだ。

一方、ティーパーティーは、着々とオバマ草の根運動の手法を研究していた。それが明白になったのは、一〇年九月にワシントンで開催されたフリーダムワークス主催のセミナーであった。一つのテーマの講義時間は六〇分であったが、草の根運動の手法に関しては、三時間の講義が二回

行われた。どのクラスも、筆者以外は白人で、居心地が極めて悪かった。驚いたことに、講師のコンサルタントが説明した草の根運動の手法は、オバマの草の根の運動の手法に限りなく近い内容のものであった。配布された活動家のためのマニュアルには、戸別訪問の際、有権者を説得するには、「議論しないこと」と明記されていた。議論によって有権者を説得するのではなく、積極的な傾聴により、相手との心理的距離を縮め、好意を抱いてもらう。それが、票の拡大につながる。ティーパーティーは、オバマ草の根運動の効果性に気づいていた。

米憲法に関するクラスでは、別の講師が配布した憲法の小冊子の内容に基づいて質問を出し、ティーパーティーの活動家がそれに回答するという形式をとっていた。憲法の小冊子は、彼等が戸別訪問で有権者を説得する際の武器として使用されることになった。オバマ草の根運動では、米憲法の小冊子を配布していない。

以上、オバマ草の根運動とティーパーティー運動の相違点を中心にみたが、以下では、類似点について述べたい。

草の根運動のロビイスト化

一〇年一月二六日、オバマ大統領の医療保険制度改革の

賛成派が、ワシントンのファラガット広場で集会を開いた。彼等は、医療保険制度改革賛成の看板を持って、ホワイトハウスの近くにある米商工会議所へ向かって行進を始めた。米商工会議所は、保険料の負担を増すとの立場からオバマ氏の医療保険制度改革に反対の立場をとっていた。

賛成派のデモ隊が商工会議所の入り口付近に到着すると、一人の女性が全体に向けて指示を出した。デモに参加しているオバマ草の根運動員に看板を掲げて、入り口の前で楕円形を描きながらグルグル回るようにさせたのである。明らかに、彼女はデモのやり方を熟知していた。

別の女性が、マイクを使って叫んだ。

「何が欲しいの」

オバマ草の根運動員が、即座に答えた。

「医療保険だ」

同じ女性が再び声を上げた。

「いつ欲しいの」

オバマ草の根運動員の声が入った。

「今だ」

バージニア州北部のフォールズ・チャーチにあったオバマ事務所で働いていた若者が、このデモ行進に加わっているのではないかと筆者は期待して参加した。しかし、そこには彼等の姿はなかった。これは、同年の中間選挙におけ

る若者層の不参加の前兆であった。

二年前の大統領選挙に参加した若者層は、大学に復学したが。選挙後、就職活動を行ったが、職を見つけることができず、結局、大学院に進学する者もいた。彼等の最優先課題は、もはや草の根運動ではなく職探しであった。オバマ草の根運動は、草の根運動員を組織化していくスキルを備えた若者層が抜けたことにより、機動力を失い空洞化を創った。誰かが、その穴を埋めなければならなかった。

その役割を果たしたのが、○八年六月に結成された「今、アメリカに医療保険を」(HCAN)というロビイ団体である。四六州に一〇〇〇以上の組織を持つこの団体には、労働組合、消費者団体、人権擁護団体などが加盟している。中でも、USアクションと米サービス従業員国際労働組合(SEIU)は、リーダー的な存在だった。

Kストリートに事務所をかまえるUSアクションを訪問しヒアリングを行った。あるスタッフがこう語った。

「OFAと連絡を密にして、医療保険制度改革法の成立を目指している」

USアクションは、医療保険制度改革法案に関して、OFAと協力して議会に圧力をかけていた。医療保険制度改革賛成のデモは、一見、草の根運動のように見えるが、実はロビイストに組織化されたものだった。USアクション

のメンバーが、オバマ草の根の運動員に指示を出し、デモを組織化して主導的な役割をしていた。オバマ大統領は、裏でロビイストに頼らざるを得なかった。それが現実だった。

オバマ草の根運動のロビイ化に関するある出来事を紹介しよう。メリーランド州ベセスダにあるオバマ支持者の自宅で、医療保険制度改革についてミーティングが開かれたことがあった。そこで、OFAのスタッフと運動員との間で、草の根の活動に関して見解が分かれた。スタッフが、医療保険制度改革法案を成立させるために、連邦議員のワシントン事務所や地元の仕事所に電話をかけて、圧力をかけるように呼びかけた。その発言に対して、中高年の男性の運動員が「我々は草の根運動員であって、ロビイストではない」と反論した。しかも彼は、「オバマ大統領のすべての政策を支持する必要はない。我々の政策を押し進めていくべきだ」と主張した。彼の目には、オバマ草の根運動の組織が、ロビイ団体に映っていた。また、上からの指示で「やらされている」という意識がこの男性にはあった。本来のボトムアップの精神や自発性が弱くなり、トップダウン式で草の根運動が行われていた。この運動員の意見は、結局、受け入れられなかった。

その後、OFAはオバマ草の根運動員を使い、医療保険を果たしていた。同団体の政治担当ディレクターのジェームズ・ヴァルボは、インタビュの中で「議員から法案に関する情報を得て、それをティーパーティーの活動家に流すことが私の仕事です」と説明をした。ティーパーティーの情報提供者は、彼のようなロビイストであり、活動家と密接に関わっていた。

一二年オバマ再選選挙と草の根運動の展望

ところで、ティーパーティーは、いつまで存続するのだろうか。それを占うのが、経済状態であることは間違いない。失業率が回復し、国民の怒りが収まれば、ティーパーティーの存在意義が薄れるのは確かだ。

中間選挙後、オハイオ州でティーパーティーの活動家の指導に当たったコンサルタントが、激戦州を含めた一三州の幹部を対象に、結果に関する調査を実施した。それをみると、彼等は今後の課題として、全国規模や中小の団体が

制度改革法案が可決されるように、議会に働きかけた。OFAのメンバーは、投票前の一〇日間に、約五〇万回もの支持要請の電話を議員の事務所に入れ、約三二万四〇〇〇通の手紙を議会に送った。明らかに、オバマ草の根運動に変化が生じていた。

では、ティーパーティー運動は、純粋な草の根運動と言えるだろうか。フリーダムワークスの社長マット・キベは、ティーパーティーの活動家に自分の選挙区の議員に面会をとり、法案に関して影響を与えるように促している。その際、キベは、議員やスタッフと意見の一致をみなくても、無作法な言動は控えて、礼儀正しく且つ冷静な態度をとるように助言している。さらに、「議員の最大の関心事は、自分の職の確保であることを忘れないように」とアドバイスを行っている。まさしくロビイ活動と違う以外ない。

さらに、キベは、フリーダムワークスの傘下にある各州の団体が、資金集めのための活動やイベントを行う場合、その費用を支援すると述べている。彼は、資金調達に関しても、献金を行う有権者は、イデオロギーに共感する者と争点の立場に賛同する者の二種があると指摘し、ティーパーティーの活動家を教育している。

フリーダムワークスは、反オバマの有権者を集め、そこにスタッフを送り込み、作成したパンフレットを彼等に配る組織をまたがって横断的に協力をし、コミュニケーションを図ることの必要性を挙げている。一二年の大統領選挙に向けて、「オバマ降ろし」を共通目標に掲げるティーパーティーは、団体間の連携を強化してやる可能性が高い。

一方、オバマ草の根運動の課題は、何であろうか。一言でいえば、若者層の参加による機動力の向上である。こちらも、失業率の回復と密接に関わっている。オバマ再選には、若者層に対する雇用創出が不可欠である。民主党大敗で終わった前回の中間選挙は、若者層の参加なしには、オバマ草の根運動は全く機能しないことを証明した。〇八年の大統領選挙を経験したフィールド・コデーネーターのスキルを備えた若者層が戻ってくるのか否かが、オバマ草の根運動復活のカギを握るだろう。いずれにせよ、ティーパーティーの存続もオバマ草の根運動の復活も、経済に拠るところが大きいうことである。

うんの・せとお

明治大学政治経済学部教授、心理学博士。アメリカン大学(ワシントン)異文化マネジメント研究所客員研究員(二〇〇八―一〇年)。一〇年米中間選挙で、ジェリー・コフラー連邦下院議員(民主党、バージニア州第一選挙区)の草の根運動に参加。〇八年米大統領選挙では、バージニア州でオバマ草の根運動員として戸別訪問を実施。専門は、異文化間コミュニケーション論、異文化ビジネス論。著書に、「トヨタ公聴会から学ぶ異文化コミュニケーション」(同友館、二〇一〇)、「日本人だけが知らないアメリカがオバマを選んだ本当の理由」(オバマ草の根運動) (同友館、二〇〇九) など多数。